

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要

建物名称	(仮称)マルタケ新潟駅前ビル	
建設地	新潟県新潟市中央区	
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	
建物用途	事務所、飲食店、集会所、等	
竣工年	2020年3月 予定	
敷地面積	994.59 m ²	
建築面積	779.07 m ²	
延床面積	6,009.29 m ²	
階数	地上9F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2018年1月5日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{68.8}{45.3} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア	値
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.5		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.5
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	4.0		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	5.0
			信頼性	Q2.2.4	3.0
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.8		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	4.6
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	LR2.1.1	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 日常の維持管理や設備の更新のしやすさに配慮。
 誰もが安心して建築物を利用できるよう、バリアフリーにも配慮。
 免震構造により建築物の耐震性を高度化。
 ・高い建物の外壁、屋根等の断熱性能。
 ・解体時におけるリサイクル促進
 ・建物形状、色彩、素材、モチーフなどを地域や周辺環境に調和させた。

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マルタケ新潟駅前ビル	階数	地上9F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	600人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、集会所、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年1月5日
敷地面積	995 m ²	作成者	松原輝
建築面積	779 m ²	確認日	2018年1月10日
延床面積	6,009 m ²	確認者	熊谷泰彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 事務所、飲食、物販、集会場の用途を持つ複合建築物である。 花崗岩による自然な風合いの外壁、ダブルスキンのPCカーテンウォールによる熱負荷低減、OA化によるフロアの柔軟性の確保、緑化による街路との調和、免震構造による耐用性・信頼性の向上などに配慮。		その他 0
Q1 室内環境 温熱環境、光環境への配慮、空気環境	Q2 サービス性能 広さを感じられる空間の確保、維持管理しやすいスペースや、設備の用意による機能性への配慮。 免震構造やゆとりある設備スペースによる、信頼性・耐用性の向上	Q3 室外環境(敷地内) 都市部でのまちなみ、景観への配慮を重要視した。
LR1 エネルギー PCを中心とした外壁構成・ダブルスキン+ブラインドの採用による熱負荷抑制	LR2 資源・マテリアル 分別が容易な材料、内装変更を前提とした設備計画、OAフロアとし、再利用の可能性向上を図っている。	LR3 敷地外環境 運用時CO ₂ の低減、交通負荷への抑制、整理された光環境への配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される